

令和4年度神奈川 ME-BYO リビングラボ実証事業の評価

1 実施事業者

カゴメ株式会社、エーテンラボ株式会社

2 実証事業のテーマ

SDG s への貢献を提示する栄養教育プログラムが勤労者の野菜摂取量に与える影響

3 実証事業の評価

本実証事業は、企業の従業員を対象に、県内の企業7社、約300名が参加し、健康のための栄養教育プログラムの実施に加え、習慣化をサポートするアプリを用いて自身の野菜摂取行動が子ども食堂への寄付につながるという社会貢献のアウトカムを提示することが、野菜摂取行動に与える影響を検証した。参加者数は計画を大きく上回ったが、本件は参加者及び協力企業の負担が大きく生じることはなく、概ね計画に沿って実施されたと評価できる。

実証の結果としては、社会貢献のアウトカム提示が野菜摂取量の増加に効果的であること、更には、栄養教育プログラムとの相乗効果により、野菜摂取に関する行動変容ステージの前進（無関心期の減少及び実行期の増加）に繋がること、野菜摂取により自己肯定感が増大すること、が示唆された。専門委員からは、社会貢献が事業モデルに活用されることにより、事業モデル自体の社会的意義を高めることになる、とした評価があった。

また、本事業モデルは、参加者個人や協力企業に強く共感され、想定以上の参加者が集まった点において従来の事業モデルよりも優れており、社会実装性は高いと評価できる。加えて、本実証事業を通じてまとめられた研究結果が、第82回日本公衆衛生学会で発表され、学術的なエビデンスを深めたことも特筆に値する。

今後は、論文化による更なるエビデンスの深化に加え、本格的な社会実装に向けた観点から、マネタイズモデルの検討と社会貢献団体を含めた体制作りが構築され、企業が推進する健康経営やSDG s の取組みの中で活用されていくことを期待する。

令和6年3月27日

神奈川 ME-BYO リビングラボ審査委員会